

KTK
NO.94

あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

仲間の輪 スタート



昨年、開設30年を迎えたあらぐさ。そしてまた新しい職員を迎え、スタートした31年目です！
顔なじみの職員には満面の笑みで。初めて見る職員には“どんな人やろ？”とドキドキしたり、
気になって質問してみたり…。それぞれの利用者さんが様々な表情を見せてくれます。

新しく来た人も、迎える人もまだまだ慣れない日々が続きますが、その中で一緒に楽しいこと、
新しい発見をして仲間の輪を広げていけたら、と思います。

これからのあらぐさを楽しみにしてください！

しっかり者のもと君 家族、仲間といっしょに



もと君は34歳、お家は向日市です。あらぐさでは、土づくりから始める花の栽培や古紙回収、和紙作りなどの仕事をがんばっています。

おいたち

生後3ヶ月に京大病院を受診し、そこで聖ヨゼフ整肢園を紹介され、ボイタの訓練を始めました。1日4回の訓練を覚えるために、1か月間母子入院もしました。就学前にはヨゼフ整肢園の「ひばり」の療育教室にも通いました。

医師から「同年代の子どもと遊ばせるといいですよ。」とアドバイスを受けると、さっそく家の近くの第二保育所を見に行き…出会った所長さんと話す中で、保育園に遊びに行くようになりました。そして、3歳からは正式に入所。左半身にマヒがあり全身のバランスが不安定で、まだ歩けなかったのですが、毎日乳母車で通っていました。雨の日も通えるようにと、お母さんは車の免許もとりました。

家ではボイタ訓練も続けていました。4歳の時はしかにかかり、その後脱力発作が起きるようになりました。生後すぐからお世話になっているヨゼフの家森先生には、今も薬の処方をしてもらっています。5歳児の頃に、はじめて自立歩行ができるようになりました。お散歩だけはお囀りの先生とバギーでかけていました。

向日が丘に入学

向日が丘養護に入学し学校生活が始まると、もと君を発奮させる取り組みが毎日ありました。太鼓からだづくり、介助歩行で校外学習、山の活動もしました。四つ這いで山の斜面を登ったり、坂すべりをしたりしました。「エライ！」と先生に励まされると、一生懸命がんばるもと君。さすがに帰り道はく

たくたで、お砂糖でエネルギー補給したり、おんぶしてもらったりということもありました。

教室では、もと君は担任の「ほー先生」とよく遊びました。大好きなゴレンジャーやアンパンマンになりきりチャンバラごっこ。やっつけられたりやり返したり、そのうち『アンパンチ』と得意技が出たり。相手に立ち向かっていくやりとりの力、コミュニケーションの力が育ちました。

着替えやトイレなど自立のための努力もしました。5年生の時には自立の力をつけようとヨゼフに1年間入院しました。金曜日の晩に家に帰り、日曜日の晩には病院にもどるという生活でした。そのためにマリア養護に転校しましたが、先輩の友人の部屋に行き本を読んでもらうなど、楽しみも見つけて頑張りぬきました。



向日が丘はスクールバス通学でした。バスの停留所で、お母さんは向日市のお母さん達と知り合いになり、その中で今まで知らなかったいろいろな事を知ることができたそうです。障害児学童保育「がんばクラブ」のことを知りましたが、当時は体力がなく学校から帰ると疲れきっていたし、長期休みも家族で過ごせたので「がんば」に入ったのは4年生、遅いデビューでした。発作で休むこともありましたが、友達ができて喜んで出かけていました。

中学部・高等部での生活

中学部では寄宿舎も体験。小学部の時に「久僧キャンプ」に参加したことや、1年間のヨゼフ入院の経験もあり、落ち着いて過ごすことができ、短期でしたが自立の経験が広がりました。お母さんは、小さい頃から「ボイタ訓練で泣いた後はぎゅーっと思いきり抱きしめて。親離れができる心の安定を育ててください。」と言われたことを大事にしてこられたそうです。もと君は、寄宿舎でもがんばっても久僧のキャンプでも、自分を支えてくれる人（先生や指導員さんや担当の人など）を見つけて頑張ってきたのでしょう。

高等部になり、いつまでも戦隊ヒーローもないのでは…と迷ったお母さんは、「もうやめたほうが」と担任の先生に相談しました。先生いわく「好きなものがあることは大事ですよ。好きなことを支えに我慢もできます。」今でも戦隊ヒーローものはもと君の楽しみの一つです。親子とも良い学校生活でした。

あらぐさで働いています

卒業はひまわり園のできた年でした。もと君はがんばクラブの人にもたくさんいる、当時無認可の「さくらんぼの家」を選択。認可後はあらぐさの生活介護「デイセンター1Bグループ」にいます。好きな仕事は畑仕事や和紙作りです。畑では、土づくりや花の栽培を頑張っています。カタログ商品の仕分けは、ホールいっぱい品物を並べ、職員さんと一緒に取り組んでいます。もちろんほっこりタイムも大好きです。

地域での暮らし

～「家族旅行」にでかけています

もと君はお父さんと、よくビデオショップにでけたり映画に行ったりします。好きな戦隊モノに出ている俳優さん（もと君いわく「ササノ」がお気に入りだとか）が登場する映画を見に行くというマニアックなところがあるそうです。帰りにお気に入り

のコンビニでイトイン。「かか」（お母さん）のお土産を買うのが楽しみです。

家族旅行も楽しみの一つです。時刻表を調べて予定を立てるのはお父さんです。もと君の楽しみは、お土産を選ぶことです。あらぐさの大好きな職員さんに買って帰りたいのです。

月に2回、あらぐさとひまわりでショートステイをしています。ガイドヘルプは月2回、友人と2人で利用しています。池田のカップヌードル工場や神戸港などへ出かけました。



もと君の自立と家族の自立

もと君は成人するに従って、自分で発作の薬が飲めるようにこころがけています。薬は朝・昼・晩欠かせません。今ではもと君は、次の日の用意をする時に「かか、ボーや（薬の準備忘れてませんか?）」とチェックしてくれるそうです。お母さんは自分の体力が大事と自覚して、体を鍛えています。友達としゃべったり笑ったりすることも必要と感じ、積極的に活動しています。

今の生活が、高齢や家族の介護が必要になった時に続けられるかという心配もあります。社協で相談支援事業を受けています。乙訓に入所施設ができること、希望者が入ることができるグループホーム、必要な時に入れるショートステイ等、希望者も多くなっているので、もっと充実すればと願っています。

（取材：前田幸子 真殿尊子 坂下佳子）



とっておきの一枚

プランター 菜園に チャレンジ



昨年、もえぎ棟のみなんで相談してプランター菜園に挑戦しました。

1つはプチトマト、1つはいちご、おまけにひまわり。

事前に本を読んで予習。植える日をカレンダーで確認して、いそどりに帰ってくると、さあ、いよいよ定植！「おおきくなるかなあ…？」期待を胸に1つ1つ苗を植えました。手作りのラベルを差し込んで、あとは成長を待つだけです。水やり当番を決めて朝・夕とみなんで交代して水やりをしていきました。

夏になると暑くて、苗も弱り気味…それでも植物の力で何個かトマトが実りました。いちごは時期が合わず、失敗に終わりましたが、トマトは何とか育ってくれて、無事収穫することができました。

ご家族の方とお話をしていると、「家では全然水やりを頼んでもしてくれないんですよ～」というお話も伺いました。みなんで育てる食物は、特別なものがあるのかも知れません。

今年はまだ相談していませんが、またささやかな楽しみにチャレンジしてみてもいいなあと思っています。
(ケアホームいそどり 中田)

作品介绍

<デイセンター2>

フェルトの積み木パズル



フェルトの積み木パズルは2月の「創」で初お披露目となった作品です。発泡スチロールにメンバーさんが好きな色の羊毛を巻き付けて縮絨していきます。面を変えながら少しずつ縮絨していくので時間はかかりますが、1ピースずつ思いのこもった作品となっています。手触りがよく軽いので小さなお子さんにぴったりですよ。

障害福祉センターあらぐさ 職員

吹上 綾伽 さん

デイセンター1（Bグループ）の吹上です。今年で2年目になり、社会人としても2年目になりました。仕事にもだいぶ慣れてきました。利用者さんと毎日一緒に活動し、学びながら楽しく働いています。

* *

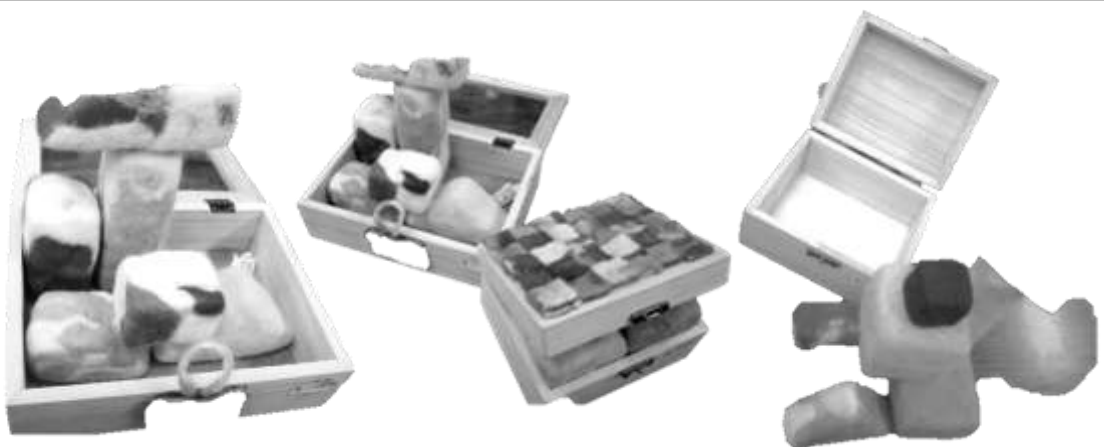
私は保育士を目指し保育の専門学校に通っていました。そこでの最初の実習が施設実習。このあらぐさでした。障害のある方とあまり関わった事なかった私は、不安でいっぱいでした。実習前のオリエンテーションの時に製品のカタログを見せてもらい、利用者さんが作っていると聞いた時はとても驚きました。どのような方達がものづくりをしているのだろうと、お会いするのがとても楽しみになりました。実習当日、デイ2に配属でした。とても緊張していたのですが、たくさんの利用者さんが笑顔で迎えてくれました。活動では1人ひとりが真剣にお仕事に取り組み、お仕事を終えると職員や利用者さん同士で楽しくお話ししている姿に惹かれていきました。利用者さん1人ひとりが楽しく通える職場なんだと



感じました。たった2日間の実習でしたがもっと利用者さんのことを知りたい、利用者さんとお仕事をしたいと思うようになったのです。そしてこのように思うことができたあらぐさで、働きたいと思い就職を決めました。

* *

Bグループ職員として仕事が始まり、1日1日がとても早く感じました。最初は仕事を覚えるので精一杯だったのですが、少し余裕が見えてくると利用者さんとの関わりを考えるようになりました。利用者さんとの距離が縮まらなく、たくさん悩む事もありました。ですが私の名前を覚え、名前を呼んでもらったときはとても感動しました。もっと深く関わっていきたいと思いました。これからも利用者さんとの関わりを大切にしながら、一緒に楽しく活動に取り組んでいこうと思います。よろしくお願いします。



ふつうに生きたい くらしたい！

障害者権利条約・基本合意・骨格提言の実現をめざす

4. 21全国大集会に参加して

浜野 亜希子



4月21日（木）に東京の日比谷野外音楽堂において「障害者権利条約・基本合意・骨格提言の実現をめざす

全国大集会」が行われ、参加させていただきました。

6年前の4月21日は、自立支援法違憲訴訟が国の和解申し入れにより終結した記念すべき日です。国は「自立支援法を廃止し、新法をつくる」という基本合意を守ると私たちに約束したのです。

あれから6年の月日がたち、情勢報告や様々な訴えを聞く中で、「基本合意、骨格提言が危ない」ということをひしひしと感じています。基本合意は当時の政権がどう変わろうとも国家として守るべきものです。しかし残念なことに政府からは「法的効力はなくなった」など司法を軽視するかのような発言が出てきています。

今国会では、障害者総合支援法が施行されて3年後の見直し法案の審議が行われています。しかし、この法案は「見直し」とは名ばかりで、基本合意や骨格提言を踏まえた内容にはなっていません。むしろ基本合意と骨格提言を打ち消し、介護保険との統合について議論するための準備法案とも言われています。現在は介護保険優先原則の下、65歳を迎えた障害のある人が介護保険に移行した場合、利用料の1割負担を強いられることや、使えるサービスが減るといったことが起こっています。きょうさんの藤井専務は、情勢報告で「65歳の誕生日を泣かせるな」と話されていました。障害者運動の歴史の中で「6歳の春を泣かせるな」と、養護学校全員就学運動が行われたことを聞いたことがあります。それ

から40年の年月を経て、今は「65歳の誕生日を泣かせるな」へと言葉を置き換えられるくらい大きな問題なのだと改めて感じることができました。



集会には全国から3000人もの方が集まりました。会場の日比谷野外音楽堂から永田町までのアピールでは、「国は約束を守って欲しい」「普通に生きたい、暮らしたい」「地域でともに暮らし続けたい」など、ごくごく当たり前のことを皆で訴えてきました。“なんでこんな当たり前のことを訴えなあかねやろ…”歩いているうちに何とも言えない悲しさと、情けなさがかみあげてくるほどでした。障害者権利条約には、「他の者との平等」という言葉が35か所も出てくるそうです。障害のある人も、障害のない人と同等の権利、暮らしを求めているだけなのです。障害があるが故の不利な状況を無くしてほしいだけなのです。

私たちは障害者権利条約、基本合意を高く掲げ、その実現を訴え続けていかなければなりません。これからも団結を崩すことなく、当たり前のことを声を大にして訴える必要がなくなるまで、できることを探し続けていきたいと思えます。

(写真提供：きょうさん京都支部)

熊本地震

4月14日前震、16日本震の熊本地震は1ヶ月経ってもまだ余震が続いており、多くの方が避難生活を送っています。
被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

あらぐさ職員鞍貫さん被災地で支援

現在、日本障害フォーラムが「JDF災害総合支援本部・熊本支援センター」を設置し、熊本での支援活動を行っています。そして、構成団体の「きょうされん」を通して被災地への人員派遣のよびかけがされています。今回、あらぐさから鞍貫聡史さんが1週間（5/15～21）の派遣で訪問調査をすることになりました。

今回、派遣された鞍貫さんより、現地から熊本の状況が報告されていますので一部紹介します。



5月20日

現地では益城町や南阿蘇での訪問調査を行っています。

実際に訪問して、存在に気づいてくれたことに感謝されています。障害のある人の生活の現状には、それぞれ違いが見えます。普段から地域の人との交流がある人には情報も入り、周りからも声をかけられているようです。一方で震災前から支援を受けておらず、家族で抱えこんでいる現状もありました。

震災によって、繋がり強い方は助けがすぐに入る一方で、外に出ていけない方々は孤独に、揺れに怯えておられるのだと思い、改めて繋がり大切さ、繋がっていくことの大切さを考えさせられました。

(鞍貫聡史)

きょうされんは「熊本地震」募金協力を呼びかけています

<郵便振替>

口座名義 きょうされん自然災害支援基金

口座番号 00100-7-86225

基金は当面「熊本地震」に活用されていきます

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

12月1日～3月31日 敬称略・順不同

天野さみ 生島澄夫 池田芳子 石田秀子 一鬼美紀 一箭浩志 井上久美恵 今井和子 岩倉美希 岩崎泰子 岩崎英雄 江川哲 大江延佳 大槻昭 乙訓教職員組合 小野田照代 京都府立向日が丘支援学校PTA 栗林登志子 子安正和 佐竹紀子 佐藤敦子 シャーロンアニバーサリーカウンター 白波瀬恵子 田中富男 築出邦子 (株) 辻工務店代表取締役辻正志 津波章子

寺内寿 中路克介 中村雄策 仁木宏 西山俊太郎 日本基督教団西が丘教会 仁村佳與子 濱田真里子 ぱんだ企画 久江公子 平井鍼灸整骨院 ベーカリーセルフイーユ 町田摂子 松岡稔 松村美代子 松本美津男 三木裕和 造酒豊 宮田啓子 村田清子 森本邦子 矢澤治 山香節子 山中章二 横川和男 横川喜美江 吉瀬順子 (匿名 11名)

平成28年度 あらぐさ後援会

後援会費納入とあらぐさ支援募金のお願い

あらぐさ後援会 個人 1口 1000円
団体 1口 2000円

あらぐさ支援募金 1口 1000円

あらぐさ支援募金はあらぐさ福祉会がすすめる「暮らしの場」づくりの施設整備を恒常的に支援することを目的にしています。

・同封の振込用紙をご利用ください。入金と行き違いになりました際はご容赦ください。

あらぐさ後援会 総会報告



4月23日に総会が開催されました。昨年度「事業報告、決算報告、監査報告」本年度「事業計画、予算案」「役員選出」の議案は承認されました。

昨年度の支援募金は326個人団体(前年度比+57)より111万7614円(前年度比+13

万662円)が寄せられ、一般会計の20万円を加えた総額131万7614円が施設整備支援金として法人へ寄付されました。会員数も504個人団体で前年度より40個人団体増えました。

2016年度の役員

<会長>野々下靖子 <副会長>中川千津子・増田康夫 <事務局長>松村誠 <会計>安武真理 <役員>前田幸子・稲葉薫・角摂子・真殿尊子・坂下佳子・三浦朱葉・宮本靖子・三谷文菜 <会計監査>大江文子・宋明子

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2016年6月23日発行
KTK増刊通巻第4455号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都医療病院内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信